



令和3年度

全国保健師長会活動報告

令和3年度

全国保健師長会 ブロック研修会資料

全国保健師長会

発足 昭和54年に発足（平成30年に40周年を迎えた）

目的 保健師業務の進歩発展と会員相互の連携・親睦を図り、地域住民の健康に寄与し、わが国の公衆衛生の向上に資することを目的とする。

事業 保健師業務に関する情報交換
保健師業務について研修・調査研究

会員 自治体に所属し、保健師長と同等以上の職にあるもの 5,555人
(令和2年8月末現在)

設立準備期：昭和52年～の動き

- 昭和52年夏 国の予算編成時（国民の健康づくり施策）
国保保健師が市町村一般会計に移管され、**公衆衛生活動に従事する方向が示された。**
→同年 「混乱期こそ正しい情報を伝え、リーダーが団結し生産的活動を」と検討されたが、時期尚早と先送りされた。
- 昭和53年4月 国保保健師の市町村移管
都道府県も民生部から衛生主管部局へ
厚生労働省地域保健課内に「保健指導室」が設置され、市町村・保健所保健師を一元化して指導
- 昭和53年11月 国が、数県の本庁保健師指導者の意見集約
「保健所・市町村が共同体制で、地域保健サービスの展開には、リーダーの役割は極めて重要」

全国保健師長会の誕生：昭和53年～

○昭和54年3月 設立総会 会員：300人
市町村保健師協議会設立の動きがあったが、「全国保健師長会」として設置された。

全国保健師長会に期待すること 座談会の抜粋

(昭和61年 全国保健師長会 全国保健師長会のあゆみより)

- ・保健所と市町村保健師ともにリーダーの横の繋がりがもてるという画期的な会になった。
- ・保健所はどうあればいいか、婦長として意見交換ができる場がくれる。
- ・保健所保健師の機能上の問題や業務量の増加で危機感を持っており、市町村保健師と一緒に考えられる場となった。
- ・所長会との情報交換の場となった。
- ・市町村保健師の師長の位置づけが明確でなかった。組織としてどう考えるかが大切。
- ・代議員会の参加で新たな気づきがあった。
- ・ブロック活動の強化が必要。
- ・保健師活動全般を見据え、広範囲な業務の準備から連携を図っていく過程のかわりで、人が変化することを見せていく必要がある。(保健師業務の可視化)



展開期：昭和から平成・令和へ

○昭和54年 3月22日 全国保健師長会設立

目的：保健師業務の進歩発展と会員相互の連携親睦を図り、
もって地域住民の健康に寄与し、わが国の公衆衛生の向上に資することを目的とする。

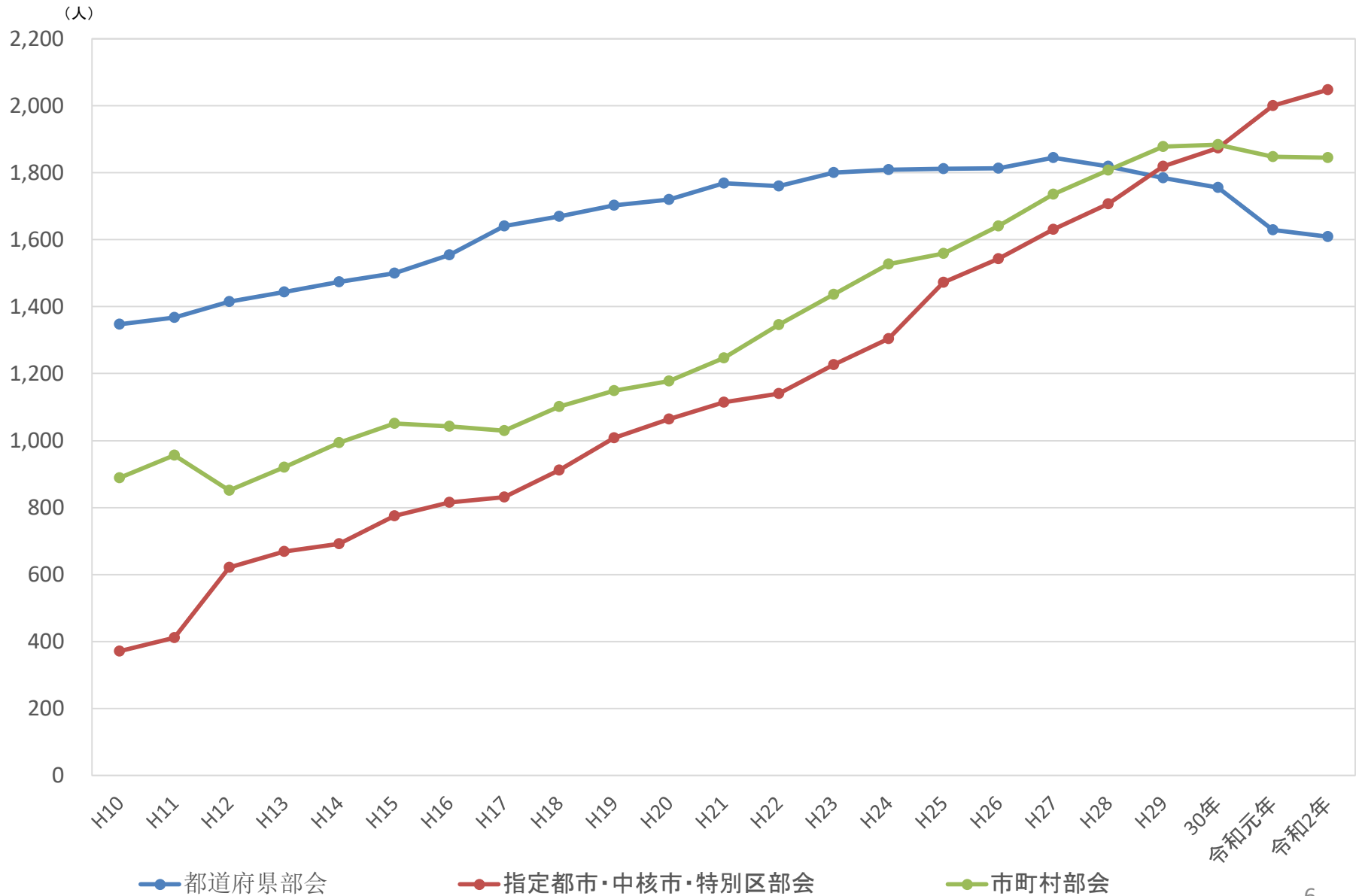
事業：保健師業務に関する情報交換
保健師業務について研修・調査研究

○昭和56年
規約改正し、市町村保健師が加入しやすい体制へ

令和2年8月末現在 5,555人

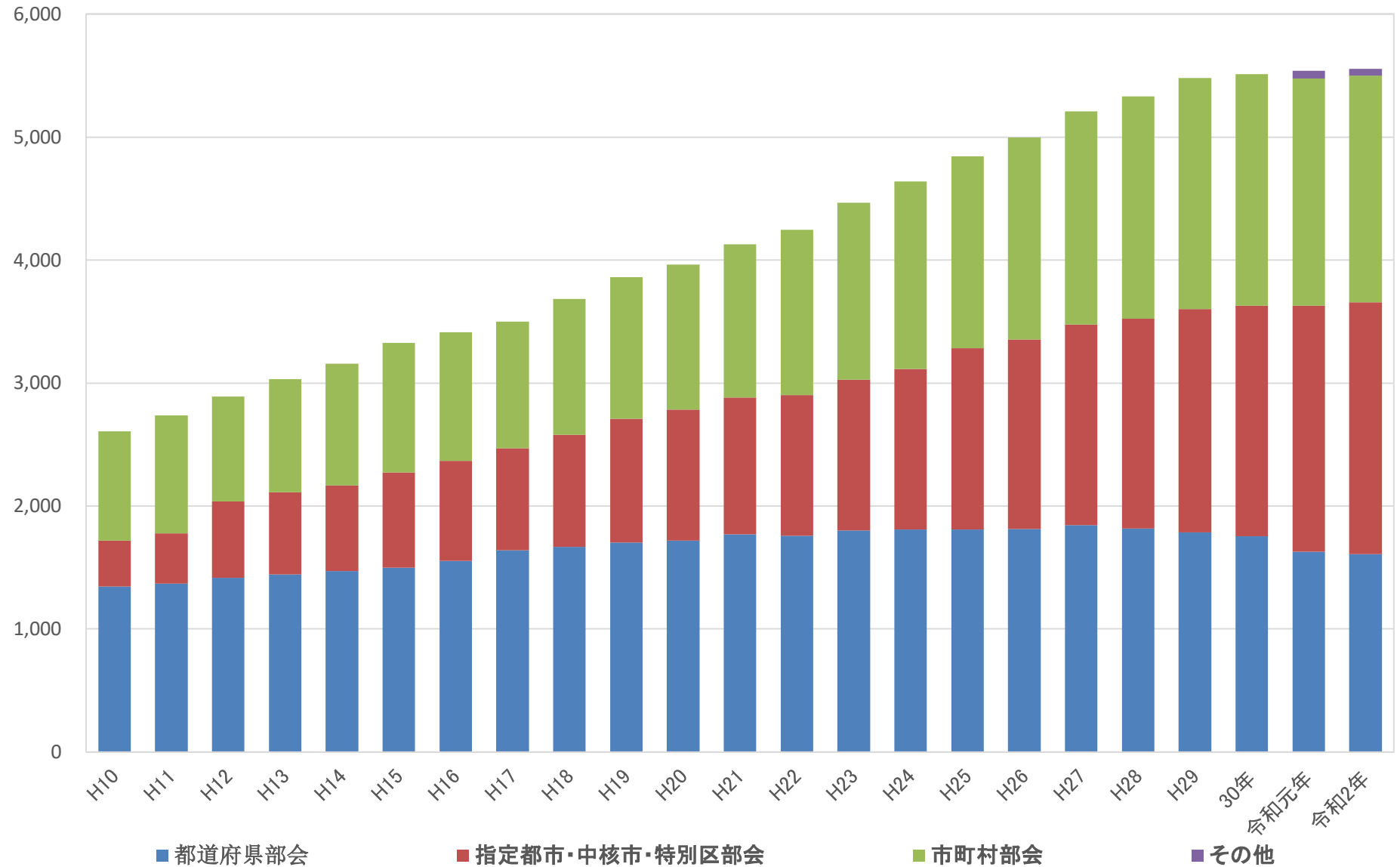
出典： 全国保健師長会のあゆみ 10周年記念誌

参考:部会別会員数の推移

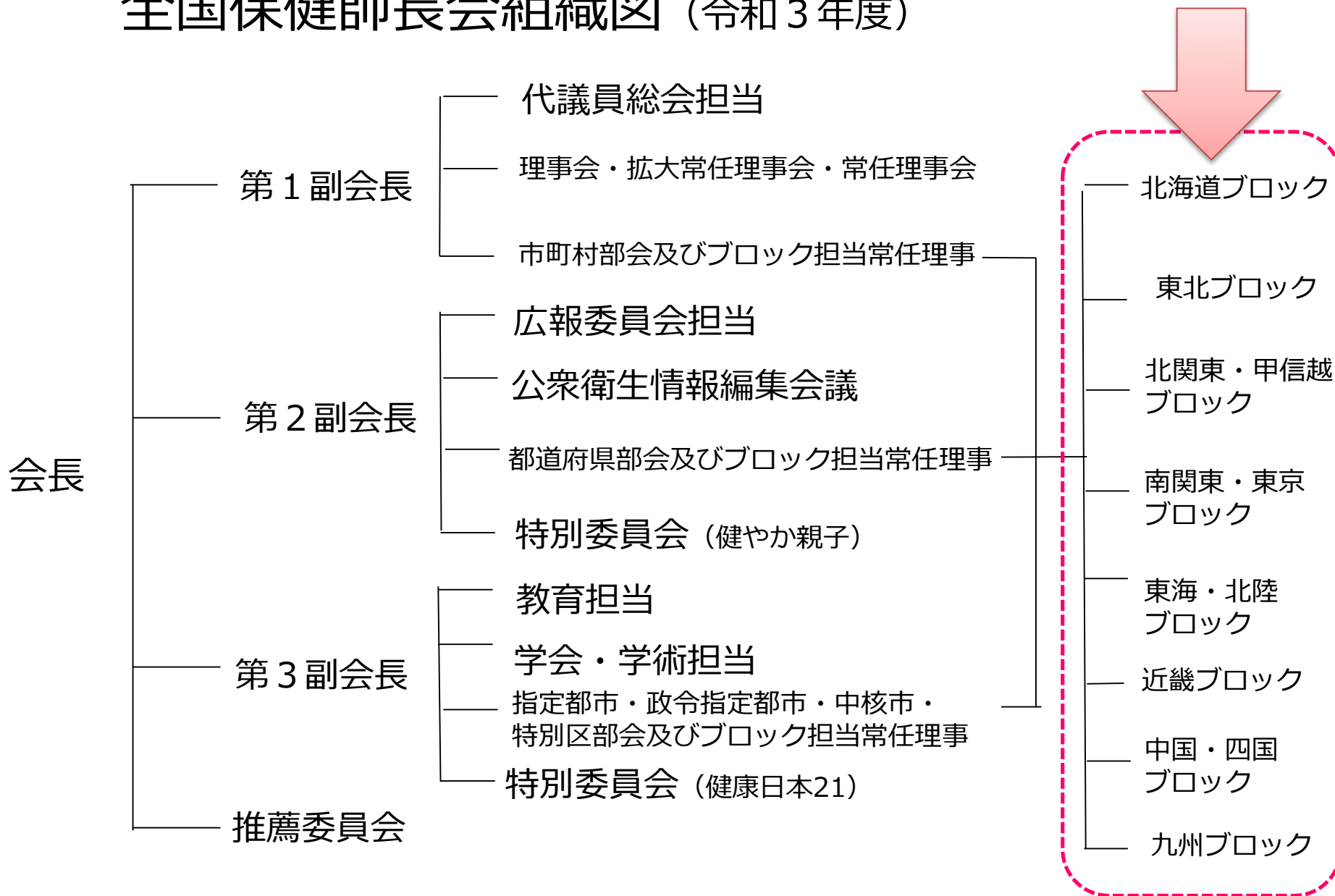


参考:部会別会員数の推移

(人)



全国保健師長会組織図（令和3年度）



※特別委員会（災害時保健活動）は総務担当理事



令和3年度 全国保健師長会 活動方針

未来を創造する公衆衛生看護活動の展開

～保健師の原点から住民とともに創る未来～

- 1 健康危機管理対策における保健師機能発揮にむけた取組の促進
- 2 専門性の高い公衆衛生看護活動の推進
- 3 ブロック、支部活動のより効果的な推進
- 4 地域の保健師活動の推進にむけた会運営の充実



令和3年度 全国保健師長会 最重点活動目標

1 保健師活動の可視化及び質の向上

- 地域における保健師活動の充実強化を図るため、活動の可視化に努めます。
- 都道府県部会・政令指定都市等部会・市町村部会各々の活動の充実を図ります。
- ブロック研修会の充実を図ります。

2 情報発信の強化

- 各自治体における取り組みの課題や先進事例の情報発信に努めます。

3 感染症対策の推進

- 保健師増員の実態について調査します。

4 災害時保健活動の推進

- 「災害時の保健活動推進マニュアル」（に基づく活動）の理解促進に努めます。

5 市町村の会員拡大

- 未加入自治体の加入促進を図ります。



令和2年度 全国保健師長会調査研究事業 (独自事業)

新型コロナウイルス感染症における保健師活動調査

新型コロナウイルス感染症対策において、保健師が担っている役割及び抱えている課題を把握し、今後、全国保健師長会として行うべき取組の検討に必要な情報として活用することを目的に当会会員に調査。

調査期間：令和2年9月25日（金）～10月9日（金）

調査方法：支部長を通じて会員に調査票データを送付。

分析方法：単純集計をする共に、複数回答については階層的クラスタ分析を実施。また、自治体別、所属部署別、職位別でクロス集計および対応分析により検討。（統計解析にはフリーソフトR version 4.0.3を用いた。）

回答率

| | |
|------|----------------|
| 対象者数 | ： 5, 555件 |
| 回答数 | ： <u>635件</u> |
| 回答率 | ： 11.8% |



参考：回答者の属性

(1) 所属自治体の割合

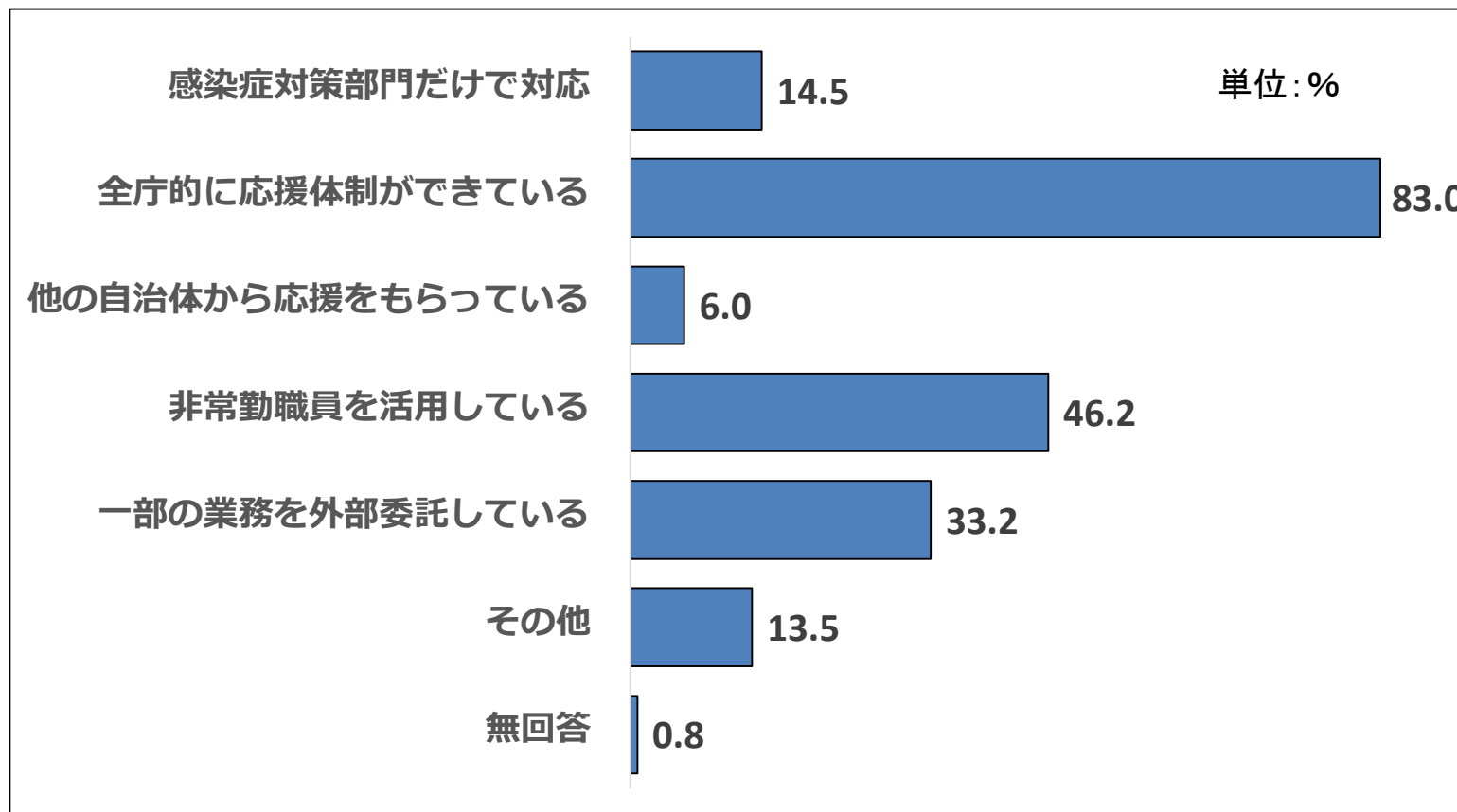
| 所属自治体 | 回答数 | 割合 (%) |
|--------|-----|--------|
| 都道府県 | 256 | 39.2 |
| 政令指定都市 | 107 | 16.4 |
| 中核市 | 70 | 10.7 |
| 特別区 | 9 | 1.4 |
| 市町村 | 205 | 31.4 |
| 無回答 | 6 | 0.9 |
| 合計 | 653 | 100.0 |

(2) 所属する部署の割合

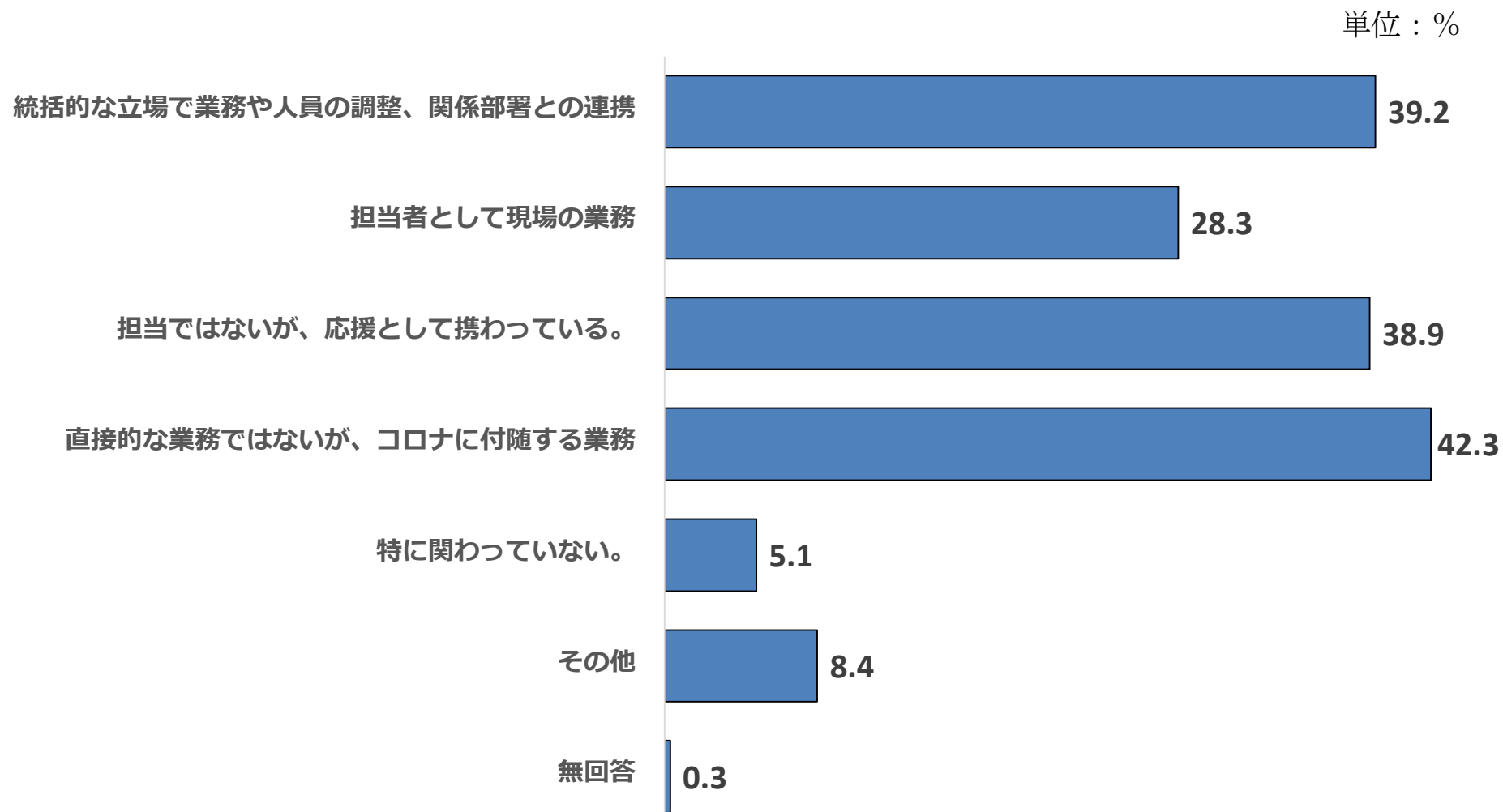
| 所属部署 | 回答数 | 割合 (%) |
|-----------------------|-----|--------|
| 本庁 | 101 | 15.5 |
| 健康づくり部門 | 230 | 35.2 |
| 感染症対策部門 | 109 | 16.7 |
| その他 (高齢・児童・障害・その他) | 185 | 28.3 |
| 無回答 | 28 | 4.3 |
| 合計 | 653 | 100.0 |

【調査結果】

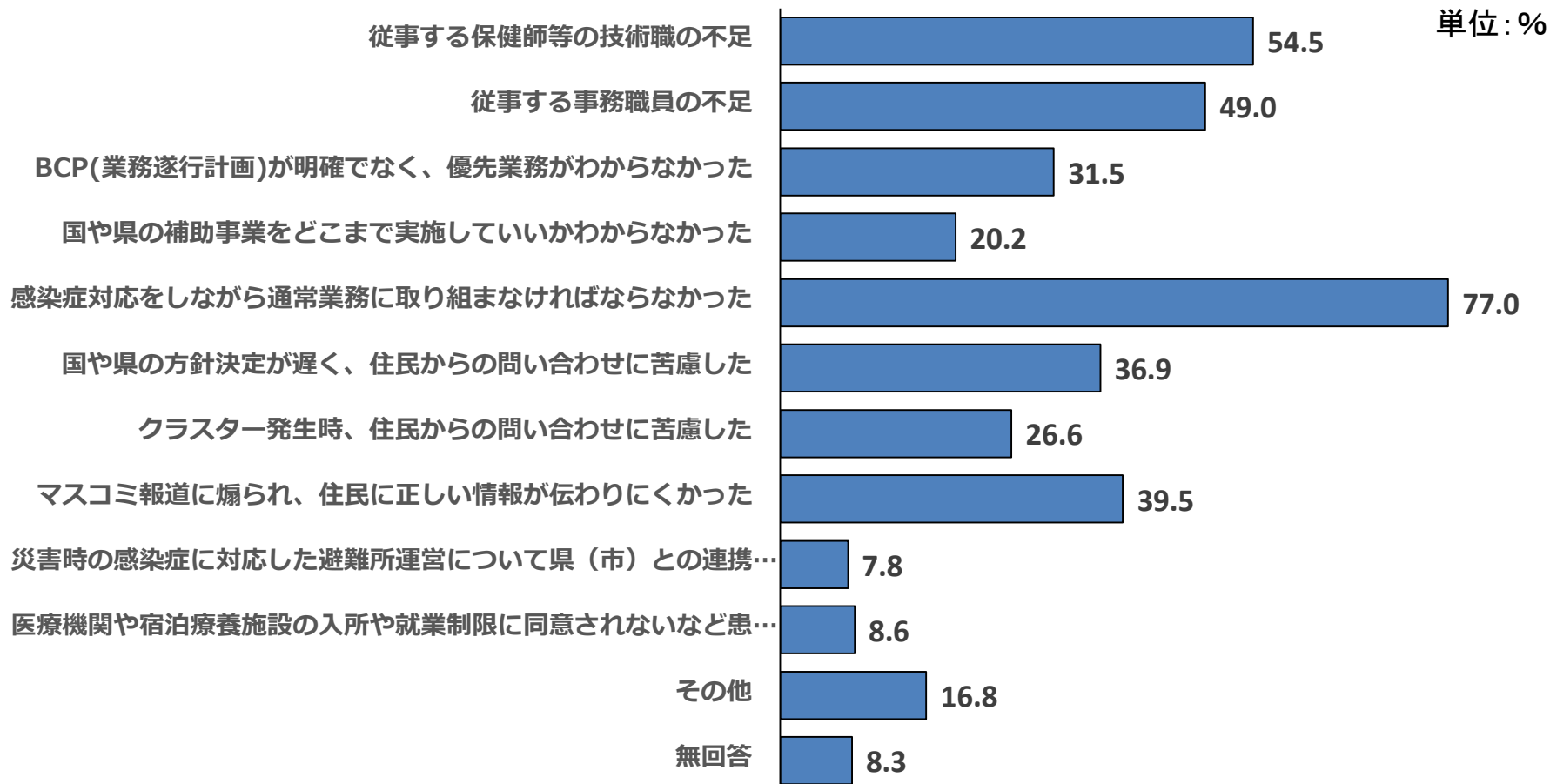
(1) 自治体における新型コロナウイルス感染症対策の体制について (複数回答可)



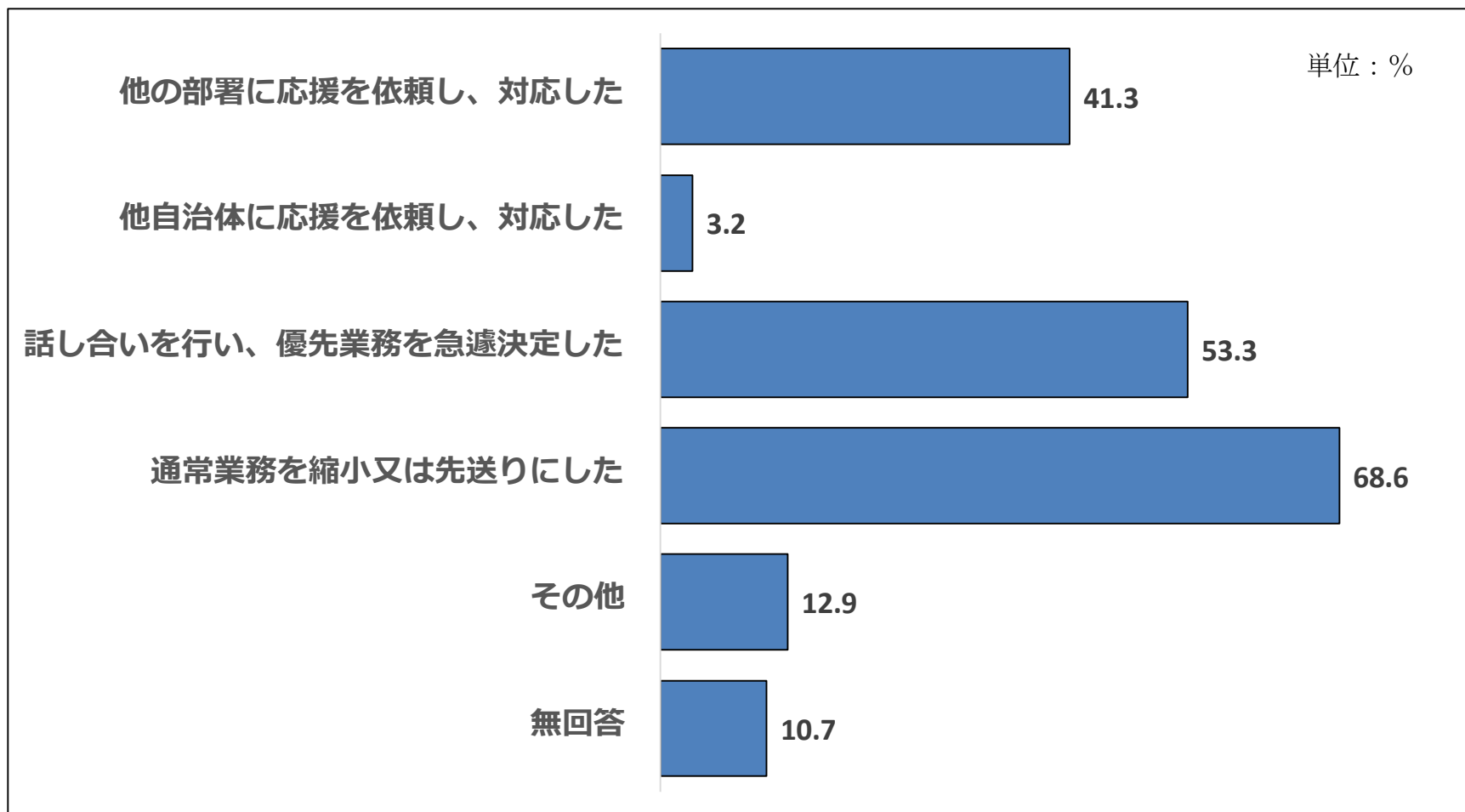
(2) 1ヶ月以内に新型コロナウイルス感染症の業務について
(複数回答可)



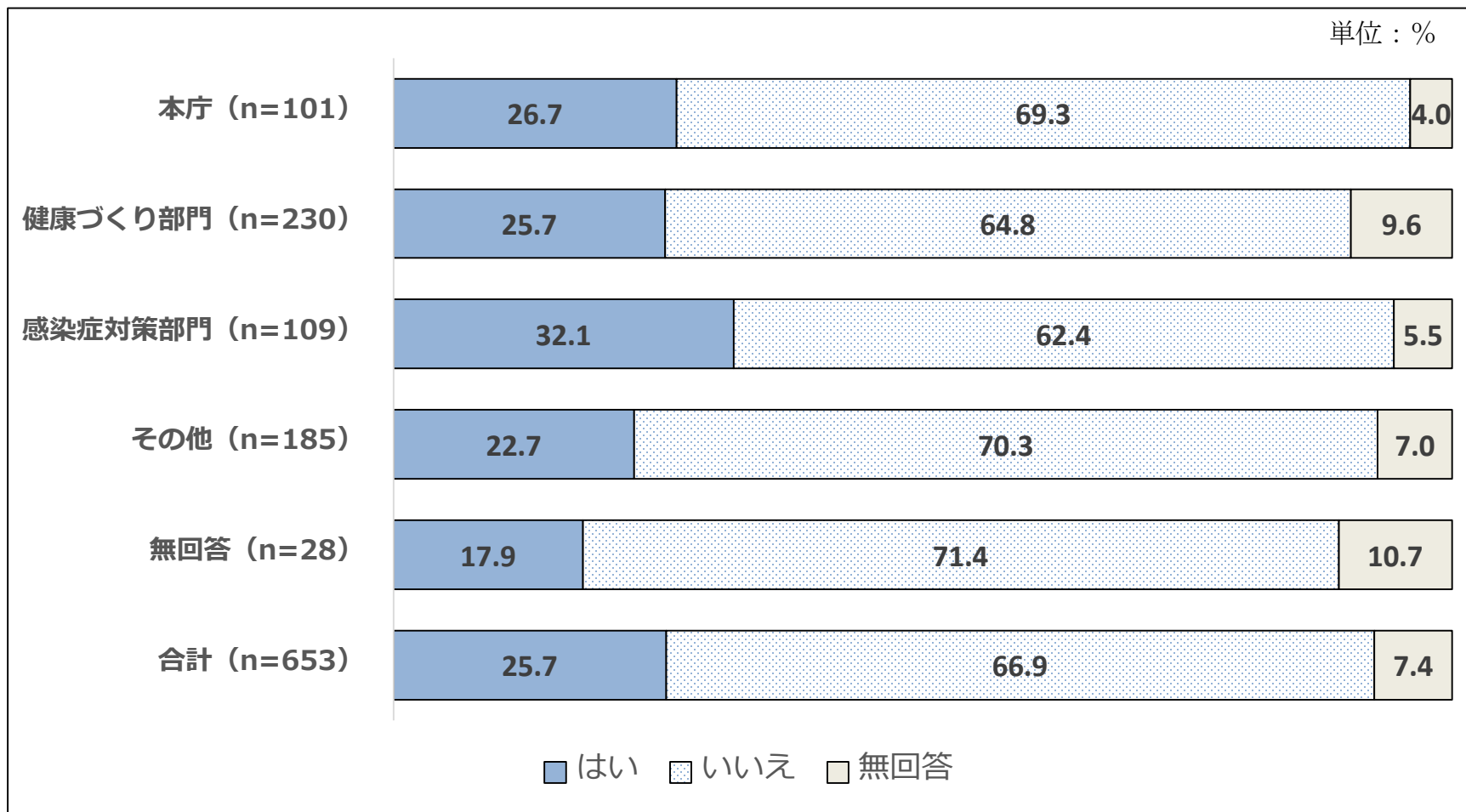
(3) 新型コロナウイルス感染症対策にかかわった中で、特に困った点について（緊急事態宣言解除前）（複数回答可）



(4) 困った点に対してどのように対応したか。(複数回答可)



(5) ここ最近1ヶ月間、気分が落ち込んだり、憂鬱な気持ちになったりすることがよくあるか



参考:課題に関する自由記載でのキーワード

- | | |
|---------------|----------|
| 1 組織内の課題 | 4 保健所の体制 |
| 2 通常業務との兼ね合い | 5 心身の健康 |
| 3 保健師の力量・人材育成 | 6 住民への対応 |

【考察】

●新型コロナ対策について、「**全庁的に応援体制ができています**」と回答した方が**83%**であったが、その反面、**自由記載をみると、組織内での調整に苦慮している様子も伺えた。**

●困った点について「**感染症対応をしながら通常業務にも取り組まなければならなかった**」と回答した方が多く、また、自由記載にも同様の記載が多かった。この対策としては、「通常業務を縮小又は先送りにすること」「優先業務を急遽決定した」とあり、**試行錯誤しながら、限られた人材と時間の中で対応しようしている状況が伺われる。**また、この状況は災害時の状況と類似していると思われるが、**災害時よりも発生期間が長期に亘わたるため、活動現場により一層困った状況を引き起こしている**ことが表されている。

●保健師のメンタル面については、都道府県、感染症対策部門の保健師に課題があることがわかり、**保健所の逼迫した業務がメンタル面への影響を及ぼしている**と思われる。

●自由記載の課題として保健師の感染症に対応する知識技術の不足、人材育成があげられており、**今後、保健師の増員が期待されるが、知識の習得をはじめとする人材育成が課題となることが想定**される。



令和2年度地域保健総合推進事業

(受託事業)

自治体保健師の活動内容の実態把握に向けた調査

～保健師活動領域調査（活動調査）の活動項目に関する調査事業～

今回の調査研究は、近年の保健師業務の変化を踏まえて、**保健師活動領域調査（活動調査）の活動項目や定義を見直し、調査結果において、保健師活動の現状を表出できるように再構築**するもの。

調査目的

1. 保健師業務の内容と量を調査するための「活動項目」について検討
2. 自治体保健師を対象に「活動項目」に活動を反映できるかのアンケート調査（以下、「**事前調査**」とする）
3. 自治体保健師を対象に、「活動項目」を使って保健師業務の内容と量についての調査（以下、「**プレテスト**」とする）及び、反映できない業務についてアンケート調査

<事前調査>

- (1) 実施期間 令和2年6月10日～7月10日
- (2) 対象者 **16自治体に所属する保健師487名**

<プレテスト>

- (1) 実施期間 令和2年11月9日～11月22日
- (2) 対象者 **32自治体に所属する保健師94名**

| 活動項目（案） | | | | 活動の反映の程度 | |
|-------------------------------|------------------------|-----------------------------|--------------------|---------------------|--|
| 大項目 | 中項目 | 小項目 | | | |
| ケース マネジ メント ユニ ティ | 直接 対 人 支 援 | 1 | 家庭訪問 | | |
| | | 2 | 健康相談・保健指 | 日時指定 | |
| | | 3 | 導、個別健康教育 | 随時 | |
| | | 4 | 健康診査、予防接種 | | |
| | | 5 | 集団健康教育、教室活動、グループ支援 | | |
| | | 追加 項目 | | | |
| | | | | | |
| | | 地域 ・ 組 織 支 援 | 6 | 地区組織活動（ネットワークづくり） | |
| | | | 7 | 担当地区の地区診断 | |
| | | | 8 | 個別支援に関するコーディネート | |
| | | | 9 | 地域ケアシステムに関するコーディネート | |
| | | 追加 項目 | | | |
| | | | | | |

<選択肢>

1. 活動をよく反映している。
2. 概ね、活動を反映している。
3. 活動をあまり反映していない。
4. 活動を反映していない。
5. 現在の所属ではその活動をしていない。

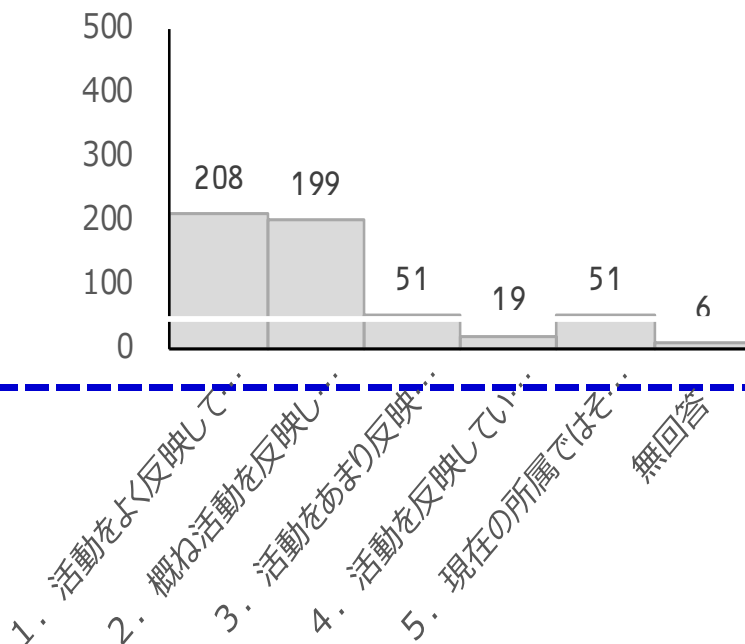
| 活動項目区分の新たな整理 | | | 活動の反映の程度 | |
|--------------|---------------|------|-------------------------|--|
| 大項目 | 中項目 | 小項目 | | |
| システムマネジメント | 組織マネジメント・業務及び | 10 | 事業・施策の企画立案・評価 | |
| | | 11 | 保健福祉計画等の策定・評価 | |
| | | 12 | 人事管理 | |
| | | 13 | 業務管理・組織運営管理 | |
| | | 14 | 予算管理 | |
| | | 15 | 議会对応 | |
| | | 16 | 施設立入検査・管理指導等 | |
| | | 17 | 学会発表等での保健活動の発信 | |
| | | 18 | 調査・研究等の依頼への協力 | |
| | | 追加項目 | | |
| 人材育成 | | 19 | 人材育成体制構築、研修会企画・実施、OJT指導 | |
| | | 20 | 実習学生・研修生への教育 | |
| | | 21 | 保健師等学校養成所での指導 | |
| | | 22 | 研修等への参加 | |
| | | 追加項目 | | |
| 健康危機管理 | | 23 | 平時の対応 | |
| | | 24 | 発生時の対応 | |
| | 追加 | | | |

結果 1. 事前調査（一部抜粋）

システムマネジメント 施策管理・業務及び組織マネジメント

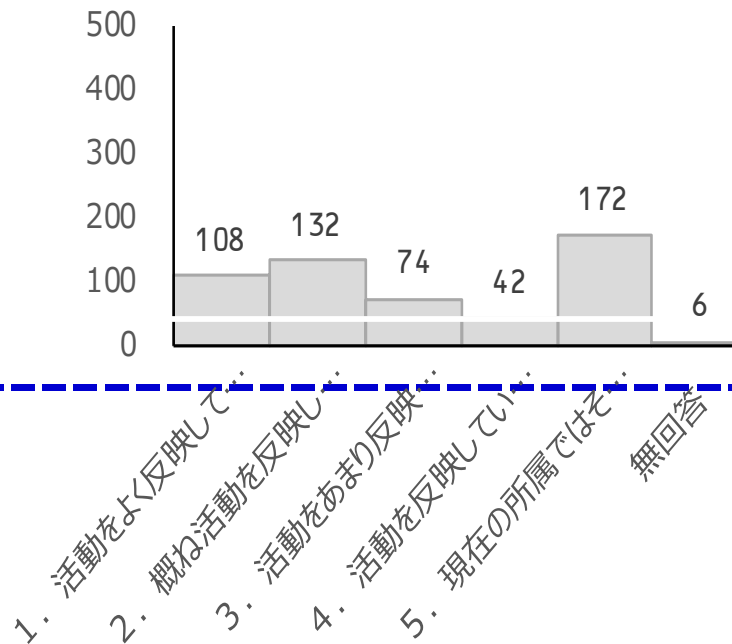
10. 事業・施策の企画立案・評価

人



11. 保健福祉計画等の策定・評価

人



結果 2. プレテスト（一部抜粋）

業務割合

(%)

| 項目 | | 都道府県 | 保健所 設置市 | 市町村 |
|------------------|---------|------|------------|------|
| ケース・コミュニティマネジメント | | 31.4 | 33.9 | 58.2 |
| 内 | 直接対人支援 | 19.3 | 22.3 | 40.4 |
| | 地域・組織支援 | 12.1 | 11.7 | 17.8 |
| システムマネジメント | | 39.5 | 51.4 | 32.3 |
| 内 | 企画立案・評価 | 20.0 | 17.3 | 9.3 |
| | 業務管理 | 8.1 | 19.8 | 9.6 |
| 人材育成 | | 12.7 | 8.7 | 5.0 |
| 健康危機管理 | | 16.4 | 6.0 | 4.6 |

まとめ

事前調査では、本研究で新たに定義した活動項目について自治体に所属する保健師から業務を反映しているかについて評価してもらうとともに、実際の活動調査に近い形でプレテストを行い、概ね実施可能であることが確認されたものの、どの項目に計上すべきか迷う点等が散見された。

これらの結果を踏まえ今後本事業で収集したデータを元に実施上の課題を精査し、必要に応じて項目や記入の仕方の説明を修正する必要がある。

今後の展望

本事業の検討段階では、保健師活動領域調査のデータの各自治体での活用にはばらつきがあり、有効活用できている自治体もあればそうではない自治体もあるという課題が挙がっていた。

今後、保健師の業務を可視化し、効果的な活動、業務の効率化、人員配置の最適化等にデータを活用していくことが望まれる。



令和3年度 全国保健師長会調査研究事業

全国保健師長会(独自)調査研究事業

| テーマ名 | 研究代表者 | 代表者所属名 |
|--------------------------------------|--------|------------------|
| 新型コロナウイルス感染症に関連して増員された保健所保健師等の業務について | 來山 典子氏 | 政令指定都市・中核市・特別区部会 |

地域保健総合推進事業（受託事業）

| テーマ名 | 研究代表者 | 代表者所属名 |
|-------------------------------|--------|-------------------|
| 地方自治体の保健師活動におけるICTの活用に関する調査事業 | 吉田 知可氏 | 調査研究委員会 担当常任理事 |

各委員会等の活動報告の掲載

2021 活動テーマ

未来を創造する公衆衛生看護活動 ～保健師活動の原点から住民とともに創る未

最新の情報はこちら！

新着情報

- 2021.05.18 概要 - [2021年度（R3）会長・副会長あいさつ](#)を掲載しました。
- 2021.05.18 活動 - [2021年度（R3）活動方針・体系図・年間計画](#)を掲載しました。
- 2021.05.18 概要 - [役員名簿](#)を更新しました。
- 2021.05.18 理事会 - [全国保健師長会ニュース](#)を掲載しました。
- 2021.05.18 支部活動 - [名古屋市支部「なでしこ27号」](#)を掲載しました。

研修会・講演会などのお知らせ

[全国保健師長会講演会「地域保健をめぐる国の動きと保健師リーダーに期待すること」](#)
2021.4.24 Zoom

サイト内検索

[サイトマップ](#) /

[著作物について](#)

トピックス

- [ご接見（保健所関係者）（赤坂御所）](#) 令和2年6月3日（水）